

# 傳染病豫防及消毒法

東京女子高等師範學校醫局

## 現行文部省令ニヨル學校傳染病豫防及ビ消毒法

### 第一類 甲

痘瘡及假痘、實布埤里亞、猩紅熱、發疹室扶斯、ペスト、

### 第二類

赤痢、虎列拉、腸室扶斯及バラチフス

以上ノ疾病ニ罹リタル職員生徒等ハ昇校スルコトヲ得ズ治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ヅ全身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ證明スルヲ要ス。

職員生徒ノ家族又ハ同居者中ニ以上ノ疾病ニ罹リタルモノアル時又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其ノ患者屍體又ハ病毒汚染物ニ觸レタル時ハ醫師ニ於テ適當ノ所置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニ非ラザレバ昇校スルコトヲ得ズ。

生徒通學區域内ニ於テ以上ノ病發生セル時ハ其ノ病況ニヨリ必要ト認ムルトキハ其ノ局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間内ニ其ノ旨ヲ管理者ニ届出ツベシ。

學校所在地若クハ近傍ニ於テ以上ノ傳染病發生シタルトキハ下記學

校清潔方法ヲ行フベシ第二類傳染病ノトキハ飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フベシ。

### 第一類 乙

麻疹、風疹、水痘、百日咳、流行性耳下腺炎、流行性感冒、肺結核、癩病

### 第二類

傳染性眼炎、傳染性皮膚病

以上ノ病ニ罹リタル職員生徒等ハ病況ニヨリ醫師ニ於テ適當ノ所置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニ非ラザレバ昇校スルコトヲ得ズ。

學校ニ於テ以上ノ傳染病發生シタルトキハ其ノ屍體第一類患者ノ用ヒタル唾壺第二類患者ノ上リタル圍房其他障壁・牀・疊・建具・廢棄・器具等ハ二十倍ノ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ第二類患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルベシ。

食器・被服・寢具等ハ煮沸又ハ蒸氣消毒ニ附スベシ消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ焼却スベシ前記ノ消毒ニ適セザルモノハ「フオル

ムアルテヒード」ニ依リ消毒スルカ又ハ刷掃シテ數日間日光ニ曝スベシ。

教員舎監等校内ニ於テ以上ノ傳染病者クハ疑ハシキモノヲ發見シタル時ハ直チニ校長ニ申告スベシ。

學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ所置ヲナスベシ。

學校内學校所在地及ビ其ノ近傍者クハ生徒通學區域内ニ於テ以上ノ傳染病發生シタルトキハ其ノ病況ニヨリ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其ノ一部ヲ閉鎖スベシ  
傳染病ノ爲メニ閉鎖シタル學校若クハ其ノ舎室ハ再ビ之ヲ使用スルニ先チ定期清潔方法ノ各項ヲ施行スベシ。

## 學校清潔方法

### 甲 日常清潔方法

一、教室及ビ寄宿舎内ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ヅ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及ビ階段ヲ潤ホシ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具校具等ヲ拭フベシ但シ掃除ノ爲メニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ビ之ニ入ルマテニ充分乾燥シテ了ラ度トスベシ。

二、教室及ビ寄宿舎内ハ其ノ人員ニ應ジ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ズ紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ズ唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムベカラズ。

紙屑籠及ビ唾壺ハ毎日之ヲ掃除スベシ。

三、寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ用キル履物ヲ禁ズベシ但シ止ムヲ得ザル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ招ラザルコトヲ務ムベシ。

四、靴ノ儘昇校スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應ジ靴拭ヲ備フベシ。  
五、寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯セシムベシ。

六、便所ノ尿溝及ビ注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ圍房ハ濕布ヲ以テ拭フベシ樋箱ニハ成ルベク蓋ヲ設クベシ。

七、糞壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿脩酸加里、粗製格魯兒滿脩(以上百倍乃至三百倍)硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラズ汲取ラシムベシ。

八、食堂炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且ツ掃除ヲ怠ルベカラズ殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其ノ食卓等ヲ拭フベシ。

九、芥葉場ノ不潔物ハ期ヲ愆ラズ搬送セシムベシ。

十、下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フベシ

十一、庭園、體操場、遊戲場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムベシ。

### 乙 定期清潔方法

定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス。

十二、先ヅ教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸障子、窓懸等ヲ外シ敷物ヲ剥ギタル後如露ヲ以テ牀板及ビ廊下ヲ潤ホシ天井、四壁、牀板、廊下等盡ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スベシ但シ汚染殊ニ甚シキ部分及ビ器具等ハ熱鹹水若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スベシ。

十三、簾下、牀下等モ手ノ届ク限り之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及、簾廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スベシ

十四、寢具、窓懸、敷物等ニシテ洗濯シ得ベキモノハ之ヲ洗濯シ其ノ洗濯シ得ベカラザルモノハ先ヅ其ノ塵ヲ掃ヒ書籍文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スベシ

十五、器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラザレバ室内ニ持込ムベカラズ室ハ掃除後五日以上窓戸ヲ開キテ空氣及ビ日光ヲ通セシムベシ

十六、牀板、壁面等ニ虧隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風穴、煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スベシ

十七、浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥葉場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且ツ大掃除ヲ行フベシ

丙 浸水後清潔方法

洪水ノ爲メ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スベシ

十八、水ニ浸サレタル校舍殊ニ寄宿舎ノ建具、牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且ツ牀下ノ汚物、泥土ヲ除去シ場合ニ依テハ焚火、火鉢等ヲ用キテ充分乾燥セシムベシ

十九、建具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後成ベク之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムベシ

二十、浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ず數回之ヲ浚滌シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後之ヲ使用スベシ  
但シ開校後一ヶ月間ハ必ず其ノ水ヲ煮沸シ飲用スベシ

二十一、右ノ外定期清潔方法ノ各項ヲ應用スベシ

東京市ニ於ケル學校傳染病

消毒標準

甲

痘瘡及假痘、實扶埤里亞、猩紅熱、發

疹「チフス」、麻疹

學校ニテ發病セル場合

イ、發病者教員ナルトキ「教員室、受持教室ノ腰羽目板以下ノ石灰酸水(二十倍又ハ三十倍)「リゾール」水ヲ以テ拭淨スルコト、使用シタル器具類亦同シ、但シ拭淨ニ適セザルモノハ刷掃シテ日光ニ曝スコト、兩便所ヲ石灰乳ヲ以テ消毒シタル上直チニ汲取ラシム。

ロ、發病者ガ教員以外ノ職員又ハ使丁ナルトキ「其ノ坐席ノ存スル室、執務シタル室ヲ教員ノ場合ニ準ジテ消毒スルコト。

ハ、發病者ガ兒童ナルトキ「其ノ教室ノ腰羽目板以下教員ノ場合ニ準ジテ拭淨スルコト、使用シタル器具類兩便所ノ消毒方法ハ教員ノ場合ニ同シ。

家庭ニテ發病シタル申出アリタル時。

イ、發病後ノ缺席ガ二日未滿ナルトキハ學校ニ於テ發病シタル場合ト同様ノ消毒方法ヲ行フコト。

ロ、發病後ノ缺席ガ一週間以内ナルトキハ其ノ坐席及ビ其ノ附近ノ消毒ヲ行フコト。

ハ、發病後ノ缺席ガ一週間以上ナルトキハ其ノ情況ニヨリテ適當ノ消毒ヲ行フコト。

同居者ニ以上ノ患者アリタル時。  
坐席及び其ノ附近ノ消毒。

## 乙

### 赤痢、虎列拉、腸窒扶斯、

甲ノ場合ニ同シ但シ兩便所ハ石灰水ヲ以テ消毒シタル上二十四時間  
ヲ經過シタル後汲取ラシム。  
甲ト同様。

## 丙

### 風疹、水痘

坐席ノ消毒ヲ行ヒ(石炭酸水又ハ「リゾール」水ヲ以テ拭淨シ)情況  
ニヨリ教室ノ消毒ヲ行フ。

## 本校及附屬校園ニ於ケル傳染

### 病ニ關スル規定拔萃

一、生徒(又ハ幼児)若シ左ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ  
届出テ出席ヲ見合セシムベキハ勿論全治後出席セントスルニ當リ  
テモ傳染ノ虞ナキ事ヲ記シタル醫師ノ證明書ヲ學校ニ差出スコト

痘瘡及假痘

實布埜利亞

猩紅熱

發疹窒扶斯

ペスト

赤痢

虎列拉

腸窒扶斯

バラチブス

二、生徒ノ家族又ハ同居人中ニ前項ノ傳染病ニ罹リタル者アル場合  
ニ於テ生徒ヲ出席セシメントストキハ醫師ヨリ適當ノ處置ヲ受

ケ且ツ傳染ノ虞ナキコトヲ記シタル醫師ノ證明書ヲ學校ニ差出ス  
コト。

三、若シ左ノ傳染病ニ罹リタル生徒ヲ出席セシメントストキハ其  
ノ病況ニヨリ醫師ヨリ適當ノ所置ヲ受ケ且ツ傳染ノ虞ナキコトヲ  
記シタル醫師ノ證明書ヲ學校ニ差出スコト

百日咳

麻疹

流行性感冒

流行性耳下腺炎

風疹

水痘

肺結核

癩病

傳染性皮膚病

傳染性眼炎

## 寄宿舎ニ於ケル注意

洗面器ハ各自ニ所有セシメ共用ヲ禁ズ。

食器ハ毎回煮沸セシム(少クモ八十度以上ノ溫湯ニ五分以上)。

寢室ハ寢室ヲ用フルヲ可トス。

ペスト、虎列拉、發疹チブス(疑似症ニアリテモ)發生ノ際ハ殊ニ患  
者ヲ速ニ隔離入院セシメ休校シ全部ノ健康診斷ヲ行ヒペスト流行時  
ニハ驅鼠ヲ行フベシ。

消毒劑ハ千倍ノ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ用ヒ器具、四壁、牀便所等ヲ

洗滌清拭シ藪壺ハ石灰乳ヲ用リ疊ハ昇汞水ヲ以テ充分濕ホシ清拭シ

日光ニ四五時間充分曝サシム金屬部ハ石炭酸水或ハ「リゾール」水ヲ

用リ同室ノ者ハ更衣シ被服ハ蒸氣消毒ヲ行ヒ書籍類ハ「ホルマリン」

消毒又ハ日光ニ能ク曝スベシ。

肺結核殊ニ開通性ノモノハ直ニ退舎セシメ前記ノ消毒ヲ施行スベ  
シ。

腸チブス、赤痢、バラチブス等ハ疑似症モ共ニ速ニ隔離シ同室者ノ健康診斷ヲ行ヒ特ニ便所ノ消毒ヲ嚴重ニスベシ繼發ノ際ハ狀況ニヨリ休校セシメ疑ハシキモノハ速ニ隔離スベシ。

傳染病流行時ノ個人攝生ハ下ニ掲グ消毒ニ就テハ尙ホ學校清潔法及ビ下記清潔消毒方法ヲ適宜應用スベシ。

調理人、下婢等ハ時々健康診斷ヲ行ヒ食物調理ノ際ハ必ず手ヲ清洗セシムベシ。

## 内務省令ニヨル清潔方法

### 消毒方法

#### 第一章 清潔方法

第一條 清潔方法ノ要領左ノ如シ。

一、傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其他病毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ焼却スベシ。

二、家屋掃除ノ際牀下ノ塵芥其他ノ不潔物ハ之ヲ取除ケ焼却スベシ。

三、傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フベシ但シ必要ノ場合ニハ修理改造及ビ井戸浚ヲ爲スベシ。

四、ベストニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、牀下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フベシ。

五、傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦各號ヲ準用スベシ。

第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナントセズ必要ノ場合ニハ消毒藥(生石灰末若ハ石灰)ヲ投ジタル後浚溝スベシ。

第三條 傳染病ノ流行又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除澆渠ノ浚溝ヲ爲ス場合ニ於テハ澆リニ消毒藥ヲ撒布スベカラズ。

第四條 澆渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラザル様一定ノ場所ニ棄ツベシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スベカラズ。

#### 第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス。

一、燒却。

二、蒸汽消毒。

三、煮沸消毒。

四、藥物消毒。

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ。

一、傳染病患者若シクハ死體ニ用ヒタル破服、臥具、片布、便器其他ノ器具等ニシテ甚シク病毒ニ汚染シ消毒後再ビ用ニ供スル目的ナキモノ。

二、傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物及ビ塵芥、動物ノ死體等。

第七條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ。

一、衣服、臥具、片布等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物等。

二、硝子器、陶器、磁器其他鑲製若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フルモノ。

第八條 蒸汽消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス。

一、革類、革製品、漆器其他ノ塗物類、護膜附品、糊附品、膠附

品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸氣消毒ヲ避クベシ。

二、被服類ニ蒸氣消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣囊中ヲ檢索シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スベシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ蒸氣消毒ヲ避クベシ。

三、蒸氣消毒ハ流通蒸氣ヲ用ヒ成ルベク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムベシ。

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸氣消毒ニ適スルモノニ同ジ。煮沸消毒ハ消毒スベキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分以上煮沸スベシ。

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑竝其ノ用法左ノ如シ。

一、石炭酸水(約三十三倍)防疫用石炭酸三分、普通食鹽五分、水九十二分。

石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸及ビ普通食鹽ニ少量ノ水ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注ギ定量ニ至ラシムベシ温湯ヲ用フレバ溶解殊ニ速ナリトス。

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但シ使用ノ際ハ毎回振盪シ左ノ諸件ニ注意スベシ。

一、尿管、吐瀉物其他ノ排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌シタル後二時間以上放置スベシ。

二、器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撤布スベシ。

三、衣類ヲ消毒スルニハ二時間以上浸漬スベシ。

一ノ二、「クレゾール」水「クレゾール」石鹼液六分、水九十四分。「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フベシ

「クレゾール」水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其ノ用量及ビ應用ハ石炭酸水ニ準ズベシ。

二、昇汞水(約千倍)昇汞一分、普通食鹽一分、水千分。昇汞水ヲ製スルニハ定量ノ昇汞及ビ普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇汞錠(一錠中昇汞〇・五瓦ヲ含ム)ヲ一錠ニツキ水約五百瓦ノ割合ニ溶解スベシ。

昇汞水ハ猛毒ニシテ危險ナリ故ニ貯藏ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ昇汞錠ヲ用ヒザルモノニアリテハ「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」其他適當ノ色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但シ金屬製ノ器ニ貯藏スベカラズ。

昇汞水ハ陶器、硝子器、木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲食用器具、玩具ノ消毒飲料水ニ滲透スベキ場所ノ消毒及ビ金屬製品、屎尿、吐瀉物其他排泄物ノ消毒ニ用フベカラズ。

三、生石灰少量ノ水ヲ灌ゲバ熱ヲ發シテ崩壞スルモノ。生石灰末、生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ。吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十分ノ一ヲ投ジ能ク攪拌スベシ。

石灰乳(十倍)生石灰一分水九分。石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スベシ其ノ用量ハ吐瀉物其他排泄物等ノ容量四分ノ一以上トス但シ石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス。

普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハザル場ニ限り代用トシテ其ノ倍量ヲ用フベシ

四、格魯兒石灰水(二十倍)格魯兒石灰五分、水九十五分。

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但シ用ニ臨ミテ製スベシ。

### 五、加里石鹼又ハ綠石鹼。

加里石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要ス。

加里石鹼又ハ綠石鹼ハ不潔ナル木製器具、戸障子、牀面等ノ消毒ニ適ス。

### 六、「フォルムアルデヒド」。

「フォルムアルデヒド」ハ「フォルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニヨリ之ヲ發生セシムベシ。

「フォルムアルデヒド」ヲ使用セントスル際ハ左ノ諸件ニ注意スベシ。

一 氣密ニ閉鎖シ得ベキ消毒函又ハ土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ得ベキ室内ニ非ザレバ之ヲ使用スベカラズ。

二 消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルマリン」四十瓦以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フォルムアルデヒド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置ケベシ。

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用キルコトヲ得。

一 土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ノ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定著セル器物等ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハザルモノ。

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハザル貴重品其他ノ物件ニシテ其ノ内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナシト認メタルモノ。

七、「フォルマリン」水「フォルマリン」一分水三十四分。

「フォルマリン」水ハ用ニ臨ミ「フォルマリン」一分ニ定量ノ水ヲ加ヘ製スベシ。

「フォルマリン」水ハ家庭、家具、什器及ビ衣類等ノ消毒ニ適ス其ノ用法ハ石炭酸水ニ準ズベシ尿管、吐瀉物其他ノ排泄物ノ消毒ニ用ベカラズ。

### 第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

一、傳染病患者治癒シタルトキハ全身浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムベシ場合ニヨリテハ溫濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ゲナシ。

二、看病人病家ノ家人其他病毒ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及ビ衣服ヲ消毒シ入浴スベシ手足ノ消毒ニハ石炭酸水「クレゾール」水又ハ昇汞水ヲ用フベシ。

三、傳染病患者死體等ヲ運搬シタル後駕籠、釣臺ノ類ハ使用後毎回石炭酸水「クレゾール」水「フォルマリン」水又ハ昇汞水ヲ以テ拭拭スベシ。

四、傳染病患者ノ吐瀉其他ノ排泄物ノ入りタル便所ノ糞池ノ肥料溜等ニハ生石灰末石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌ギ能ク攪拌スベシ但シ便所ハ石炭酸水「クレゾール」水又ハ「フォルマリン」水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得。

病毒ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌ギ消毒スベシ。

病毒ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰ニ曝シ若ク

水ヲ灌ギ其ノ塵芥ハ燒却スベシ。  
 病毒ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格魯兒石灰  
 水ヲ灌グベシ

五、傳染病患者ノ著用セル衣類、臥具竝其ノ病室ニ在ル諸器具又  
 ハ看病人及ビ患者ニ接シタル家人ノ衣類其他病毒汚染ノ虞アル  
 モノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スベシ。  
 第八條ノ第一ニ掲ゲタル物品ノ類ハ加里石鹼又ハ綠石鹼（毛皮  
 ニハ避クベシ）ヲ以テ洗ヒ又ハ石灰鹼水「クレゾール」水若クハ  
 「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若クハ撒布シ又ハ「フォルムアル  
 デヒド」ヲ用フベシ。

第五條ニ掲グル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハザルモノハ日光

ハ大氣中ニテ乾燥セシムベシ。

六、患者ノ居室其他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各  
 部ハ石灰鹼水「クレゾール」水「フォルマリン」水又ハ昇汞水ヲ以  
 テ拭淨スベシ但シ土藏造、洋風建物等密閉シ得ベキ室内ニハ「フ  
 オルムアルデヒド」ヲ用キルコトヲ得。  
 消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要  
 ス。

傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニハ水量五  
 十分一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時  
 間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニヨリテ熱蒸汽ヲ通シ三十分間以  
 上沸騰セシムベシ。

病名	病原	抵抗力	病毒所在及感染徑路	素因	潜伏期
赤痢	志賀氏 赤痢菌	抵抗力ハ略腸チ ブス菌ニ似タリ ニ萬倍ノ昇汞水 ニ暫時 〇・五%石灰 鹼水ニ直ニ 八十度ノ温湯ニ 五分間 日光ニ三十分 寒冷ニハ容易ニ 死セズ	本菌ハ腸内ニ存スルノミナルヲ以テ 糞便ニヨリ排泄セラレ、ノミ腸チブ ス菌ノ如ク血行中ニ侵入スルコトナ ク從テ尿中ニ現出セズ。 傳染ハ口ヨリス假之バ糞便ノ所置不 注意ノ爲メ寢具、衣服、使用器具、 病室ヲ混セル水、飲食物、蠅ノ媒介、 患者ノ嚙接セシ際消滅シテ意ル等又菌 保有者ノ媒介ニヨリ傳染ス。 菌保有者（又菌携帯者、保菌者）トハ 病治癒スルモ尙ホ病菌ヲ排泄スルモ ルノ又ハ菌ヲ排泄スルモ病症ヲ發セザ	大人小兒共ニ侵サル 腸胃ノ弱キ人ハ侵サレ易 多クハ一二歳ヨリ十歳迄 多クハ二 三日時ト シテ三 乃至八日 赤痢トスル人アリ	多クハ二 三日時ト シテ三 乃至八日
小兒疫痢	駒込菌 又ハ異型菌	同上	同上	同上	同上
コッポ氏	酸及ビ消毒藥ニ對シ 抵抗力弱ハン	同上	同上	同上	同上
哺乳兒、健康ノ大人ニ少	同上	同上	同上	同上	同上



<p>ペ ス ト</p>	<p>腸 チ ブ ス チ ブ ス</p>	<p>コ レ ラ</p>
<p>エルサン氏 ハスト菌 二時間ノ菌 ニシテ死ス</p> <p>便中ノ菌ハ石灰乳ヲ加フレバ一</p>	<p>エーベルト コッポ氏 チブス菌 アシヤール ギーン氏 バラチブス菌</p> <p>確實ニ死滅セシムルニハ 二十度ノ温湯ニ五分間 二百倍ノ石灰酸水ニ三十 分間 千倍ノ昇永水ニ三十分間</p>	<p>コレ菌 八十分ノ熱ニテ 五十度ノ石灰酸水 ヲ加フレバ五分 間 一萬倍ノ鹽酸水 及ビ硫酸水ニハ 數秒ニ百萬倍ノ 昇永水ニ五分間 且シ魚類ニ附着セルモノハ充分煮沸ス 管内ニアアルモノ、如キハ充分煮沸ス 管ニ非ラザレバ死滅セズ 寒冷ニ遇フモ月餘生存 河水池水ニ數週生存</p> <p>滅死ニテ</p>
<p>病菌ハ腫脹セル淋巴腺、血行等ニ存 スルヲ以テ尿、膿液、喀痰、</p> <p>傾等ヨリ排泄セラル</p> <p>傳染ハ患者ニ觸接スレバ勿論使用器 具衣服等ヨリニ接ス</p> <p>侵入門ハ皮膚粘膜ノ損傷部、呼吸器、 眼等本邦ニテハ鼠疫ニ蔓延シ</p> <p>ニヨリ傳播ス</p>	<p>病毒ハ主トシテ扁桃腺或ハ腸管ヨリ 血液、内臓、入スルヲ以テ患者ノ 他發疹中ニモ存在スルヲ以テ搔把ニ ヨリ容易ニ手、指、爪等ニ附着スル 恐アリ</p> <p>傳染ハ患者ニ觸接シ或ハ尿、屎、唾 液等ニ汚サレタル衣服、夜具、患者 ノ飲料水、食物器具等ヨリ其他本病者 取リスル爲メ其他蠅ノ媒介、保菌者等</p>	<p>ラルコレラ菌ノ傳染モ口ヨリスルモ ニシテ病原菌ガ飲料水、食物等ト 共ニ攝取セラレ或ハ手指ニ附着シテ セヨリ入り胃液中ニ入り居ル者又ハ 冷飲飲料ノ一部ヲ生菌腸ニ入り胃ヲ通過 スル爲メ一部ヲ生菌腸ニ入り胃ヲ通過 カリ性ノ液トシテ保菌者アルヲ以 速ニ蕃殖ス本病ニ保菌者アルヲ以 テ傳染媒介ノ恐アリ其他蠅ノ媒介等</p>
<p>不潔ナル下層社會ノモノ ニ多シク感染ニヨリ多少ノ 一回ノ感得 免疫性ヲ得</p>	<p>壯年ノモノニ少キモ小兒 老人ノモノニモアリ 一ノ回ノ感染ハ數年ノ免疫 性ヲ得再感染ハ少ナシ モ但シ腸チブスニ對シ免疫 性ヲ得ル能ハズ</p>	<p>ナク老人及ビ病後榮養不 腸胃病ニ罹レル者及ビ酒 客ハ侵サレ易シ 一回ノ罹病スレバ五六ヶ月 間免疫</p>
<p>多ク三 至五日乃 乃至八日</p>	<p>十乃至十 七日乃至 四日乃至 二十日</p> <p>バラチブ スハ多ク 七三日乃 至</p>	<p>日稀ニ三 四時間</p>



水痘	百日咳	流行性耳下腺炎	流行性感冒	流行性腦脊膜炎	ハイチ、氏病	癩病
不明	ホルテール及シヤンク氏菌ナラン	不明	パイフェル氏菌 インフルエンザ菌 モ速ニ死ス (パイフェル氏菌以外ノ菌ニテ) (來ル流行性感冒モ同様ニ取扱)	ワイクセル パウム氏菌 ニ死滅ス 低温日光乾燥ニヨリ容易	不明 高温ニハ直チニ死滅スルモ 低温及ビ乾燥ニハ抵抗力強シ	ハンセン氏菌
傳染徑路ハ風疹ノ如シ	病毒ハ喀痰中ニアリ傳染力ハ初期ニ強ク恢復期ニハ直接痰ノ飛沫ヲ受クルニ非ラザレバ傳染セズ傳染ハ直接若クハ使用シタル器具、被服等ヨリス	口内ヨリ傳染スルガ如シ	病毒ハ主トシテ喀痰ニヨリ排泄セラ ル患者ニ觸接或ハ使用器具ヨリ或ハ 喀痰飛沫ノ吸入ヨリ感染ス	鼻、咽腔ヨリ侵入スルガ如シ 本病ハ人ヨリ人ニ傳染シ而カモ家族 傳染ハ稀ニシテ専ラ個人ノ素質鼻咽 頭カタタル等アリ誘發サル、如シ	觸接又ハ健康人ノ媒介、土壤等 病原體ハ鼻腔咽頭ヨリ神經中樞ニ達 スルガ如シ	抵抗力薄層ナレバ 死滅 直日光三十二三時間 分散光線ニテ三十五日 八十度ノ温湯ニテ五分 間
主トシテ小兒	五歳以下ニ多ク十歳以上ハ稀ナリ 一回ノ罹病ハ免疫性ヲ得	七八歳ヨリ十五歳迄ニ多シ併シ大人ニモアリ通常一回ニテ免疫性ヲ得	小兒大人共ニ侵サル	十歳以下ノ小兒ニ多シ	三歳迄ノモノニ多シ	小兒ニハ殆ンド發セズ 二十歳乃至四十歳ノ間ニ發スルコト多シ
十四日	三乃至十日	二三週或ハ以上	二乃至三日或ハ三乃至六日	三四日	動物試験ニヨレバ八九日	數年
						一、體格 長身纖弱、皮色蒼白、胸廓狹長ナル者 一、年齢 十歳—三十歳ニ多シ

傳染性皮膚病	傳染性眼炎	肺結核及癰疽
<p>白癬ハ登校ヲ禁ズ            疥癬ハ治癒シタル後登校ヲ許ス            結核性皮膚病ハ醫治ヲ要スルハ勿論登校可否ハ醫師ノ意見ニヨル</p>	<p>トラホームハ不明            コツホウキークノ桿菌            チツフテリ―菌等</p> <p>ニ存ス            侵入徑路            一、空氣ト共ニ吸入セラル            一、患者咯痰ノ飛沫            一、乾燥セル痰未ラ混ズル塵埃            一、但シ患者ノ呼吸ニハ菌無シ            一、扁桃腺ヨリ侵入ス            一、開通結核(結核菌ヲ痰中ニ排出スルモノ)患者ノ衣服器具            一、皮膚ノ損傷部ヨリ侵入ス</p>	<p>癰疽ノ菌            煮沸五分間            流通蒸氣數分            量ノ二十倍ノ石炭酸            水ヲ加フレバ二十四            時間ニテ十倍ノ濃            ゾ―ル―水ニ十二時            滅菌            結核菌            コツホ氏            痰中ニアル菌乾燥セザレバ            數ヶ月生存            下水中ニアリテハ一ヶ月生存            糞壺内ニテハ數日―一ヶ月生存</p> <p>ニ存ス            侵入徑路            一、空氣ト共ニ吸入セラル            一、患者咯痰ノ飛沫            一、乾燥セル痰未ラ混ズル塵埃            一、但シ患者ノ呼吸ニハ菌無シ            一、扁桃腺ヨリ侵入ス            一、開通結核(結核菌ヲ痰中ニ排出スルモノ)患者ノ衣服器具            一、皮膚ノ損傷部ヨリ侵入ス</p> <p>小兒ハ主トシテ淋巴            腺結核(癰疽)ニシテ            成人ハ肺結核多シ            日光ノ缺乏            滋養ニ乏シキ食物            運動不足            身體ノ抵抗力ヲ減ズ            ル事項            重病、心身過勞、消化            器病、呼吸器病、貧            困憂愁等            一、呼吸器病ヨリ轉症慢            性氣管枝カタル肺            炎、百日咳、麻疹            結核ノ反應(一旦結核菌            ノ侵入ヲ受ケタルモノハ            現ニ發病セルト治癒セル            トラ間ハズ反應ヲ呈ス)            ハ年齡ト共ニ百分數ヲ増            加シ成人ニ在リテハ殆            ド百分中九十以上ハ二            フ呈スルモ死亡者ハ一            歳ノ者及ビ老年ノ者ニ多            シ            幼兒及ビ兒童期ハ最モ少</p>
	<p>ニ存ス            侵入徑路            一、空氣ト共ニ吸入セラル            一、患者咯痰ノ飛沫            一、乾燥セル痰未ラ混ズル塵埃            一、但シ患者ノ呼吸ニハ菌無シ            一、扁桃腺ヨリ侵入ス            一、開通結核(結核菌ヲ痰中ニ排出スルモノ)患者ノ衣服器具            一、皮膚ノ損傷部ヨリ侵入ス</p>	<p>數年</p>
	<p>トラホームハ不明</p>	

病名	小赤兒疫痢痢	コレラ	腸チフス
初發病狀及豫後	腹痛、下痢、食機不振、熱發、粘液血便、赤痢ハ百人中十乃至二十ノ死亡數アリ 疫痢過半死亡ス	類々タル吐瀉、熱ハ多クハナシ豫後 過半不良	徐々ニ發熱シ食機不振、頭痛、不眠、下痢(或ハ傾瀉)等アリ バラチブスハ多ク急ニ熱發シ或ハ輕熱ニテ經過スルコトアリ又吐瀉ヲ以テ始マルコトアリ 豫後チブスハ死亡數十乃至二十パーセント
休校期間 (傳染期間)	五六週 治癒後約二週 (菌ノ消失スル迄)	三四週 病ノ治癒後一二週 (菌ノ消失スル迄)	約六七週 治癒後二週 但シ治癒後尙ホ數モ月間菌ヲ排泄スルノ全クノアルヲ以テ菌ノ勿ク排サスルニ至ル迄 休校ヲ要スルコトナリ
教師ノ注意	腹痛、下痢等アルモ夏季初秋ハ小兒ニハ柿、葡萄等ノ果實、冰小豆、腐敗ニ傾キタル食物ヲ禁ズ其他癢冷、過食ヲ注意セシム	嘔吐、下痢ノ有無ヲ聞キ腸胃症狀アルモ特ニ流行時ニハ過食、生ノ物、小魚等ヲ食セザル様注意ヲ與フベシ 手ヲ能ク消毒セシム	上記ノ症狀ナルモ初メハ倦怠、微熱、頭痛、病機不振等不定ノ難シナルヲ以テ知り
豫防及消毒	患者發生ノ際ハ上記規定參照 教室、便所、廊下、器具等ヲ消毒スベシ 個人衛生 過劇ノ勞動ヲ避クルコト 腸胃ヲ害セザル様注意スルコト 飲食物ハ一旦煮タルモノヲ用ユルコト 汚染物又ハ疑アルモノニ觸レタル時ハ手ヲ能ク消毒スルコト	患者發生セシ時ハ規定ノ消毒、休校等 時宜ニヨリ年長學生ニハ豫防注射ヲ行フコトアリ 特ニ學友ニ傳染セザルヤヲ注意スベシ 個人衛生 飲食物ハ凡テ八十度以上ニ熱スルコト 食前ニ顔ト手ヲ一旦煮沸シタル湯ニテ洗フコト 腹卷ヲ用フルコト 集會ヲ避ケ、病者又ハ流行區域ニ接近セザルコト止ムヲ得ズ接セシムハ衣ヲ更ユベシ	患者發生スレバ規定ノ消毒ヲ行フハ勿論 個人豫防衛生 心身過勞ヲ避ケ腸胃ヲ害セザル様流シタルモノヲ食スルコト 流行區域ニ入ラザルコト 煮沸シタルモノヲ食スルコト

麻疹	痘瘡及假痘	發疹チブス	實布埜里亞	ペスト
<p>前驅症トシテ鼻汁、噴嚏、結膜炎等ノ感冒状態ヨリ（此際口内粘膜ニ疹アリ又口内ニコブアリ）氏斑發生ス。結膜ニモ疹ヲ生ズ。二三日ノ後顔面其他ニ發疹ス。豫後 四五歳以上ノ者ハ其重症ノ合併症ハ發スレバ不、如シ他結核ノ素因ヲ増スモノ、如</p>	<p>惡寒戰慄、腰痛、發熱、惡心、嘔吐二日目ニ前驅發疹アリ、四日目ヨリ顔面其他全身ニ發疹ス。豫後 種痘セルモノハ良</p>	<p>突然惡寒戰慄高熱ヲ發シ劇頭痛、筋痛、苦悶アリ一見重篤ノ狀ヲ呈ス其他鼻、咽喉、氣管枝加答兒等ヲ發シ次テ發疹ス。豫後 死亡數二十パーセン</p>	<p>嗽下時咽喉痛、睡氣、發熱、咳色或ハ伏膝發生其他扁桃腺ニ灰白鼻テフテリイ等アリ。豫後 四五歳以上ハ多ク良ナルモ亦重篤ナルモノモアリ</p>	<p>寒戰、發熱、意識困濁、結膜充血、淋巴腺腫脹、夜啼痛、心臟衰弱、肺炎性ノモノハ呼吸困難、胸痛、咳嗽、眼ベストハ眼瞼、淚囊腫脹ス。豫後 不良</p>
<p>二回以上入浴後登校ヲ許ス</p>	<p>六—八週</p>	<p>病經過後二三週健康全ク恢復スル迄</p>	<p>菌ノ消失スル迄約三四週多クハ義膜消失後數日ニシテ菌消失スルモ往々數ヶ月菌ヲ有スル家族ノ四分一ニ保菌者アリト云フ</p>	<p>五六週 治癒後二三週</p>
<p>流行時ニハ鼻汁、流涎、噴嚏、咳嗽、熱、流汗等ノ感冒状態アレバ醫診ヲ受ケム</p>	<p>種痘ノ有無ヲ調査シ流行時ニハ種痘セシム</p>	<p>流行時ニハ其ノ區域ヨリ通學スル生徒ニヨリ注意シ場合ニヨリ通學ヲ停止ス</p>	<p>咽喉痛ノ有無ヲ聞キ熱、口臭等アルモノハ家庭ニ歸ラシム</p>	<p>流行時ハ下記豫防法ニ注意セシム</p>
<p>可成初期ニ登校ヲ禁シ規定ノ消毒ヲ行フ。恢復後モ尙ホ褐色斑及ビ脱皮アルモノハ登校ヲ禁ズ</p>	<p>患者ハ速ニ隔離シ居室、衣類、器具ヲ消毒ス豫防ハ毎五年ニ種痘セシム</p>	<p>患者發生スレバ嚴重ナル消毒ヲ施シ、休校シ續發ヲ防グベシ</p>	<p>患者ハ隔離シ規定ノ消毒ヲ行フ。室ハ、ホルマリンノ消毒ヲ可トス。確實ニ菌ノ消失シタル後登校ヲ許可ス</p>	<p>患者發生スレバ嚴重ナル消毒、休校等個人豫防衛生。家庭ヲ衣服、身體ノ清潔。皮膚ノ清潔ニ保持スルコト。皮膚ノ清潔ニ注意シ毎日入浴セシム。創傷アルモノハ治癒セシム其他鼠ノ驅除</p>

流行性感胃	流行性耳下腺炎	百日咳	水痘	風疹	猩紅熱
<p>一高熱、咳嗽、頭痛、腰痛或ハ下痢 一同ノ感染ハ却テ感受性ヲ増ス</p>	<p>耳鳴、頭痛、發熱、耳ノ下部ノ腫脹 豫後 良</p>	<p>初メ二三日ハ輕キ咳嗽ニシテ夜間ニ多ク少シク腹聲アル位ニシテ氣管枝カタルノ状態ヲ呈ス 日ヨリ連咳性ノ顔面ヲ潮紅ス ル深キ吸氣ヲ伴フ特有ノ痙咳ヲ發スルニ至ル 豫後 多クハ良、唯後來結核ヲ續發スルコトアリ</p>	<p>前驅症殆ンドナク中等度ノ發熱ト共ニ頭面部ニ生ズ 在性ニ紅疹發生暫時ニシテ其ノ部ニ水疱ヲ生ズ 一回ニテ免疫 豫後 良</p>	<p>前驅症殆ンドナク輕熱ト共ニ全身ニ小紅疹ヲ發生ス往々頸腺ノ顎下腺少シク腫脹スルコトアリ 豫後 良</p>	<p>惡寒、發熱、喉下痛等アリ次テ高熱、顔面全身紅色ヲ呈ス(口圍但シ輕色ヲ呈セズ) ラザルコトアリテハ熱ノ著シカ第四病第五病ト稱スル類似ノ疹ヲ發スルモノアルトキモ症狀一般ニ輕シ 麻疹ヨリ重シ</p>
<p>病經過後四五日</p>	<p>病ノ經過シ了ル迄</p>	<p>六七十日 咳嗽止ミタル後二週</p>	<p>約二週</p>	<p>病ノ經過後十日</p>	<p>六週 解熱ハ三週 輕症ハ三週 回以上入浴 ヲ許ス ノ後登校</p>
<p>流行時ニハ發熱、咳</p>	<p>耳下部腫脹</p>	<p>家庭ニ本患者アレバ別居セシメ尙ホ他ノ兒童ニ注意ヲ發セザルヤニ注意スベシム 生徒ニ發生スレバ休校セシメ續發セザルヤニ注意スベシム</p>	<p>熱及ビ頭面部ニ炎症ニ小水疱ヲ有ス 炎端ニ小水疱ヲ有ス ニ歸アラシム 家庭</p>	<p>輕熱、全身ニ粟粒大乃至米粒大ノ小紅疹ヲ受ケシム 等アレバ速ニ醫診ヲ受ケシム</p>	<p>初期ニ傳染性アルヲ以テ熱、咽頭痛、紅疹ヲ發スルモノ等アレバ速ニ醫診ヲ受ケシム</p>
<p>本病ノ流行ハ猛烈ニシテ豫防ノ效少ナキモ患者ハ隔離シ喀痰、糞便ヲ消</p>	<p>本病ハ危險ナルモノニ非ラザルモ傳染スルヲ以テ休校セシメ消毒ヲ行フ</p>	<p>患者及ビ同居者ハ別居セシメ感染セザルヲ確カメタル上登校ヲ許ス 居室、器具ノ消毒</p>	<p>以テ足レリトス但シ痂皮ノ剝脫後入浴シタル後登校セシム</p>	<p>危險ナキ疾患ナルモ體質虛弱ノモノハ罹病セザルヲ可トス傳染病ナルヲ以テ隔離スベシ</p>	<p>患者ハ速ニ隔離シ嚴重ノ消毒ヲ行フベシ 恢復患者ニシテ尙ホ脫皮アルモノハ登校ヲ禁ズ</p>

癩肺 結 核 癩及	癩 病	デ ハ ン イ 子 氏 病 メ	脊 液 隨 行 膜 性 炎 腦	
<p>一、慢性氣管枝カタル又ハ肺炎ヨリ轉症ヲ以テ初マルコト突然咯血ヲ以テ初マルコト著シキ貧血狀態ヲ以テ初マルコトアリ</p> <p>二、胃症狀ヲ以テ初マルコトアリ</p> <p>三、胸部ノ疼痛(主トシテ肋膜炎)ヲ以テ初マルコトアリ</p> <p>四、發熱シ輕症チブス狀ヲ以テ初マルコトアリ</p> <p>五、發生不明ニシテ偶然發見セラルルモノアリ</p> <p>六、其他咳嗽、咯痰、輕咳、頻脈、微熱、盜汗、漸時羸瘦、衰弱スル等</p> <p>小兒ノ結核ハ胸内淋巴腺ヲ</p>		<p>熱發、嗜眠、四肢知覺過敏著シキ發汗次テ四肢ニ麻痺ヲ來タス</p>	<p>一、二日ノ惡寒、頭痛、四肢ノ牽引痛ノ後劇頭痛、嘔吐、眩暈、戰慄、高熱ヲ發ス</p> <p>豫後 過半不良</p>	<p>豫後 概シテ莫ナルモ合併症ヲ發シ易シ</p>
<p>痰、尿、膿汁、便、皮膚等ニ菌存在スル間ハ瘳モ傳染ノ虞ナキ醫師ノ證明アルニ非レバ登校ヲ許サズ</p>		<p>治癒後約二週</p>	<p>治癒後鼻咽喉ニ菌ノ消失スル迄</p>	
<p>貧血羸瘦ノ傾アルモ輕キ咳嗽及ビ微熱ヲ持スルモノノ疲勞シヤスキモノ</p>		<p>同前</p>	<p>流行區域ヨリ通學スル兒童ニ注意スルヲ要ス</p>	<p>嗽、下痢等アルモノハ醫診ヲ受ケシム</p>
<p>一、豫防</p> <p>一、結核菌ノ絶滅</p> <p>一、開通性結核ハ休校セシム(又ハ退學)</p> <p>一、咯痰其他ノ排泄物ハ二十倍ノ石灰酸水ヲ以テ洗滌拭シ</p> <p>一、二十時間ノ後捨棄ス</p> <p>一、室及ビ器具等ハ十倍ノ昇永水ニ浸シ</p> <p>一、倍身長ノ高サ迄拭ス</p> <p>一、其他ハ蒸氣消毒、煮沸、燒棄</p> <p>一、菌ノ侵入ヲ受クルモノ發熱セザル</p> <p>一、乳兒期ハ成ル可ク結核ノ兩親ト同</p> <p>一、潔ニ起臥セザル可ク口巾ヲ清潔ニシテ</p> <p>一、室ニ手指及ビ玩具ヲ口中ニ入ルルコトヲ禁ジ</p> <p>一、屋外ニ遊バシムル事ヲ禁止ス</p> <p>一、幼兒ノ庭園林間等ニ於テスベシ</p> <p>一、幼兒ノ遊園等ニ於テスベシ</p>		<p>同前</p>	<p>豫防ハ感冒ニ罹ラザルコト即チ鼻咽喉カタルヲ防止スベシ</p> <p>其ノ鼻咽喉ニ損傷ヲ受ケザル様注意スベシ</p>	<p>毒スベシ</p> <p>一、個人的ニハ感冒ニ罹ラザル様注意ス</p> <p>一、患者ニ接近シテ談話セザルヲ可トス</p> <p>一、消毒ハ上記ノ如シ</p>



傳染性皮膚病	傳染性眼炎	
	眼ノ充血分泌物等	<p> <small>シタルモノハ不具ナリ</small>        瘵後ハ腺結核又ハ初期結核ハ治        癒後ハ腺結核又ハ初期結核ハ治        等ノ後ニ多シ        犯スコト多ク百日咳、麻疹     </p>
	隣席ノ生徒ニ傳染セザルヤウ注意スベシ	
<p>       テ傳染ノ危険アル者ハ休校セシム、凡        醫師ノ意見ニヨル     </p>		<p>       中ナル可成外氣中ニ遊バシムル事、適宜        消化不良、及厚衣ヲ避クルコト        受クハ結核ヲ發シ易キヲ以テ醫診ヲ        地スルヲ可トス、而テ空氣ヲ田舎ニ轉        其他上記誘因ヲ避クコト、即身體        フ強壯ニスル爲メ海水浴、沐浴、        冷水浴、冷水摩擦、襪衣ノ清潔、        精神ノ快、新鮮ナル空氣中ニ活潑ニ運        攝取セシム        體格薄弱ナル者ノ職業選擇ハ過劇        ナラザル野外ノ作業、農業、園藝        林業等ヲ可トス     </p>